

## IV. 次期の見通し

販売電力量は、定着した節電の影響が見込まれますが、平成26年度冬季の高気温や少雪による暖房、融雪需要の減少の反動などにより、対前期伸び率2.4%程度の305億kWh程度となる見通しであります。

連結業績の売上高は、燃料価格の低下に伴う燃料費調整額の減少は見込まれますが、販売電力量の増加に加え、昨年11月から実施した電気料金の値上げや再生可能エネルギー固定価格買取制度の影響などにより、730億円程度増加の7,660億円程度となる見通しであります。

一方、営業損益、経常損益、当期純損益につきましては、泊発電所の新規制基準への適合性審査対応に総力をあげて取り組んでおりますが、発電再開時期を明確に見通すことができず、火力発電所の燃料焚き増しに係る費用を想定できないことから、未定といたします。

今後、業績を見通すことが可能となり次第、速やかにお知らせいたします。

次期中間・期末配当金につきましては、業績を見通すことができないことから、普通株式および優先株式ともに未定とさせていただきます。

### ○ 連結業績見通し

28年3月期連結業績予想		(単位：百万円)	
	通	期	
		対前期増減	
売上高	766,000	73,000	
(対前期増減率)	(2.4%程度)		
販売電力量	305億kWh程度	7億kWh程度	

### ○ 単独業績見通し

28年3月期単独業績予想		(単位：百万円)	
	通	期	
		対前期増減	
売上高	738,000	74,000	

※通期の為替レートは120円/\$程度、原油CIF価格は60\$/b1程度として想定しております。